

2018年8月作成

地震災害発生時の対応マニュアル

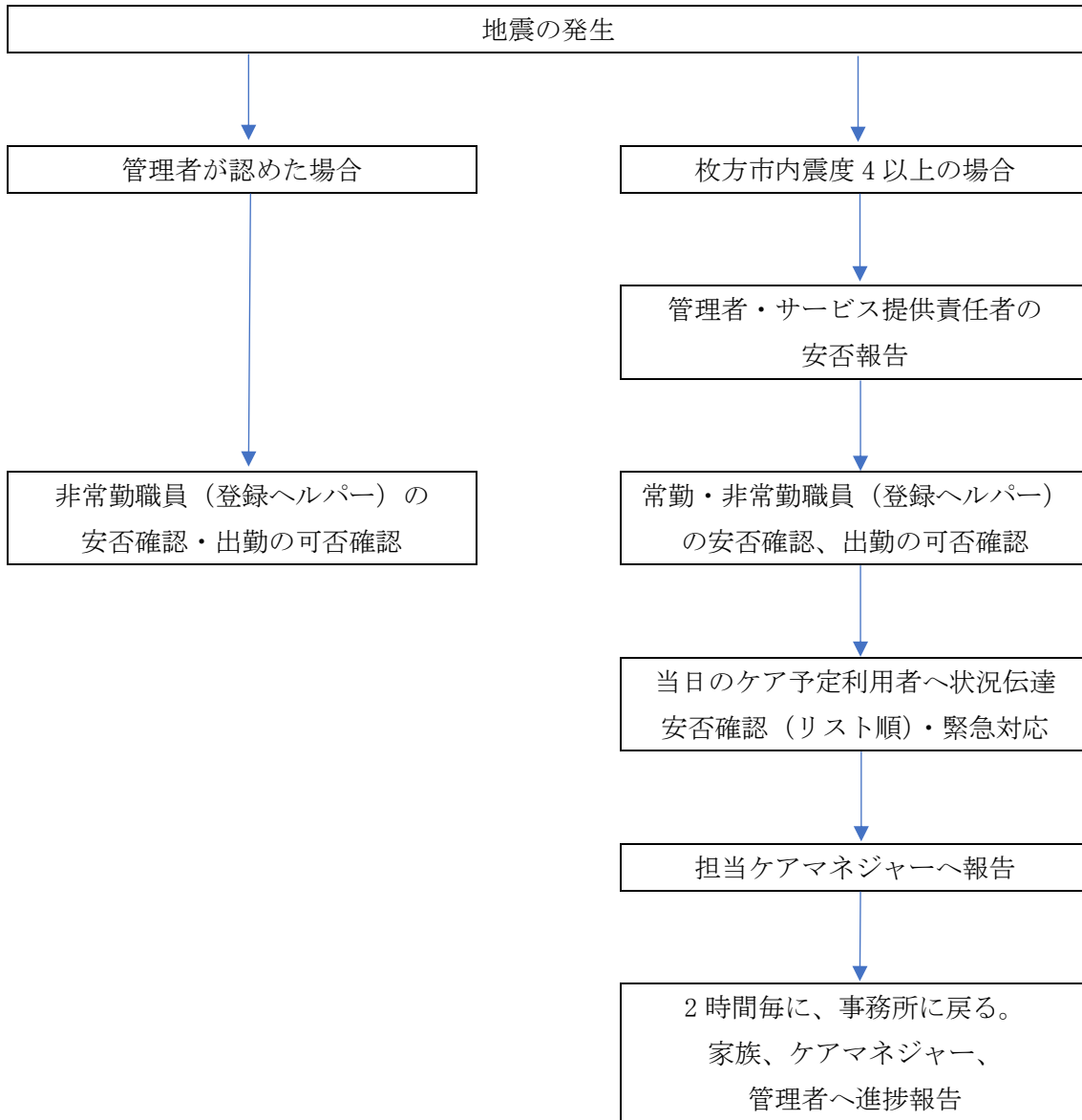
《訪問介護事業所版》

枚方市訪問介護事業者会

【基本的な考え方】

枚方市内で震度4以上、または管理者が必要と認めた場合、管理者・サービス提供責任者は自分の身の安全を確保した上で、災害情報の収集、伝達、利用者の安否確認活動を実施する。

【応急対策の流れ】



【平常時の体制整備】

- ・管理者、サービス提供責任者

本マニュアルと、災害時安否確認利用者リストは携帯しておく。

利用者またはその家族の緊急連絡先を携帯しておく。

非常勤職員、登録ヘルパーの緊急連絡先を把握しておく。

担当ケアマネジャーの緊急連絡先を把握しておく。

【出勤規定】

- ・常勤職員

自身または、家族の安全を確保した上で、マニュアルに沿って災害対策活動を実施する。自身の安否を管理者に連絡する。

- ・非常勤職員、登録ヘルパー

定められた連絡方法で安否確認、出勤の可否確認を行う。

事務所の営業時間外に震災が発生した場合も同様、安否確認・出勤の可否確認を行う。

【災害時安否確認利用者リスト】

- ・管理者、サービス提供責任者は、利用者の安否確認を実施する。

- ・生命に及ぼす危険度が高い利用者から優先順を決め対応する。

A：独居、寝たきり、在宅酸素、視覚障害、聴覚障害、認知症、ADL が低い

B：独居で比較的ADLが高い

C：同居家族ありだが、日中は一人で過ごしている

D：同居家族あり

- ・安否確認後の連絡先は、家族、担当ケアマネジャー、地域包括支援センターなど

- ・サービス提供責任者は、2時間をめどに事務所に戻り、家族、担当ケアマネジャー、管理者へ報告する。

- ・対象となる地域のハザードマップや避難所の確認をしておく。

事業所として地震への備えと対応策

地震などの災害に備える日々の確認

- ・利用者の周り、自分の周りに有事の際に危険となるものの把握に努める。
- ・有事の際、どこが安全か？確認する。
- ・利用者の移動手段、自宅周辺環境の把握（ハザードマップなど）

万が一、地震が来た場合

(訪問中)

- ・身体を低くして、頭を守る。
- ・テーブルなど身を隠せる場所が近くにあれば、その下に隠れる。

(移動中)

- ・自分の身の安全を最優先に考える。

地震の揺れがおさまったら

(訪問中)

- ・火元、ガスの元栓、電源の確認を行う。
- ・危険なもの、場所から離れる。

(移動中)

- ・自分のみの安全確保ができた状態で、事務所に報告する。

(事務所対応)

- ・管理者以下、全職員の状況確認を行う。同時に当日予定の出勤の可否確認。
- ・災害時安否確認利用者リストを参照し、利用者の安否確認を行う。定期的に職員間で連絡を取り合い、現状確認を行う。適時、利用者家族や担当ケアマネジャーにも報告する。可能な限り、迅速に手分けして確認作業を行う。

震度とゆれの状況

0



【震度0】
人は揺れを感じない。

1



【震度1】
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

2



【震度2】
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

3



【震度3】
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。


4



【震度4】

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

6弱



【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い 耐震性が低い


5弱



【震度5弱】

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

6強




【震度6強】

- はわなないと動くことができない飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い 耐震性が低い

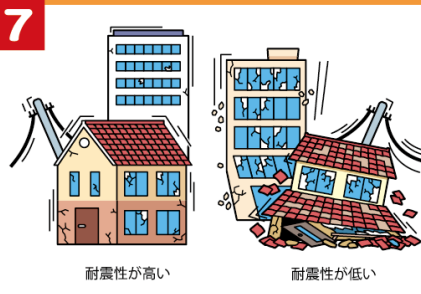
5強



【震度5強】

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

7



【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

耐震性が高い 耐震性が低い

この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。

気象庁震度階級関連解説表 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>

気象庁発行資料より引用

※このマニュアルは、各事業所の実情にあわせて加筆などを行いご使用ください。